

共生・協働のむらづくりステップアップ事例集

～共生・協働の^{むら}農村づくり運動の取組紹介～

(vol. 6)



平成27年3月
鹿児島県農政部農村振興課

はじめに

県では、平成19年度から、農村が地域住民にとってゆとりとやすらぎの空間となるとともに、都市住民にとっても魅力ある場となるよう「人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会」を基本目標として、集落の推進体制の見直し等による「農村集落の再生」、都市・農村交流などを通じた「新たなむらづくりの形成」、耕作放棄地の発生防止や地域資源の活用等による「むらづくりの維持・発展」の3つの取組を柱に「共生・協働の農村（むら）づくり運動」を推進しているところです。

このような中、県内の農村集落では、地域住民の自主的な話し合いを基本に、NPO法人や大学などの多様な主体と連携したむらづくりや、高齢・小規模農家も参画した地域営農の仕組みづくりなど、地域の創意工夫により、様々なむらづくり活動が展開されています。

本事例集は、県内各地域におけるむらづくり活動を紹介することで、共生・協働の農村（むら）づくり運動の普及・啓発を図ることをねらいとしており、この事例集が市町村はもとより、関係地域の方々に広く活用され、農村集落等の活性化が図られることを期待しています。

最後に、本事例集を取りまとめるに当たり、関係市町村及び各農村集落の関係者、地域おこし団体等に御協力いただいたことに御礼申し上げます。

平成27年3月

鹿児島県農政部農村振興課長

満園 秀彦

目 次

1	共生・協働の農村づくり運動の概要	1
2	紹介する事例の位置図	2
3	各種表彰地区の紹介	4
	・豊かなむらづくり全国表彰事業	
	＜平成25年度 農林水産大臣賞＞	
	・新城地区公民館（垂水市）	5
	＜平成26年度 農林水産大臣賞＞	
	・高山地区公民館（日置市）	7
	・平成25年度 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰 農村集落部門	
	・吉利地区公民館（日置市）	9
	・中津川区むらづくり委員会（さつま町）	11
	・川上校区むらづくり推進委員会（肝付町）	13
4	共生・協働のむらづくり実践事例の紹介	16
	・八重地区（鹿児島市郡山町）	17
	・元養母・下養母地区（日置市東市来町）	19
	・古殿集落（南九州市川辺町）	21
	・永田地区（南九州市川辺町）	23
	・藤本地区（薩摩川内市樋脇町）	25
	・山下地区（阿久根市）	27
	・嘉例川地区（霧島市）	29
	・北山校区（始良市）	31
	・柳谷町内会（鹿屋市）	33
	・川上地区（肝付町）	35
	・中割地区（西之表市）	37
	・湯泊集落（屋久島町）	39
	・兼久集落（天城町）	41
	・与論地区（与論町）	43
5	むらおこし団体の紹介	46
6	県事業の紹介	52
	・共生・協働のむらづくり活性化事業	53
	・地域営農の仕組みづくり実践事業	55

1 共生・協働の農村づくり運動の概要

1 運動名

共生・協働の^{むら}農村づくり運動

2 運動の目標

人と自然と地域が支え合うみんなで創る農村社会

農村が農業者などの地域住民にとって、ゆとりとやすらぎを実感できる生活空間となるとともに、都市住民に対して魅力あるライフスタイルを提供する場となるよう、すべての人々が、多彩で豊かな自然や伝統文化などを再認識し、世代、性別、地域、価値観などの違いを超え、共に支え合い、共に築くむらづくり

(3) 運動の推進方向

ア 農村集落の再生

農村集落におけるむらづくりの推進体制の見直しを行い、それぞれの地域の実態に応じたむらの目標や将来像等を示した「むらのかたち」の作成やそれに基づく実践活動等を通して、農村集落内の住民・組織間等の連携により農村集落の再生を図る。

※農村集落とは、継続的な農業生産活動及びむらづくり活動が行われている集落

イ 新たなむらづくりの形成

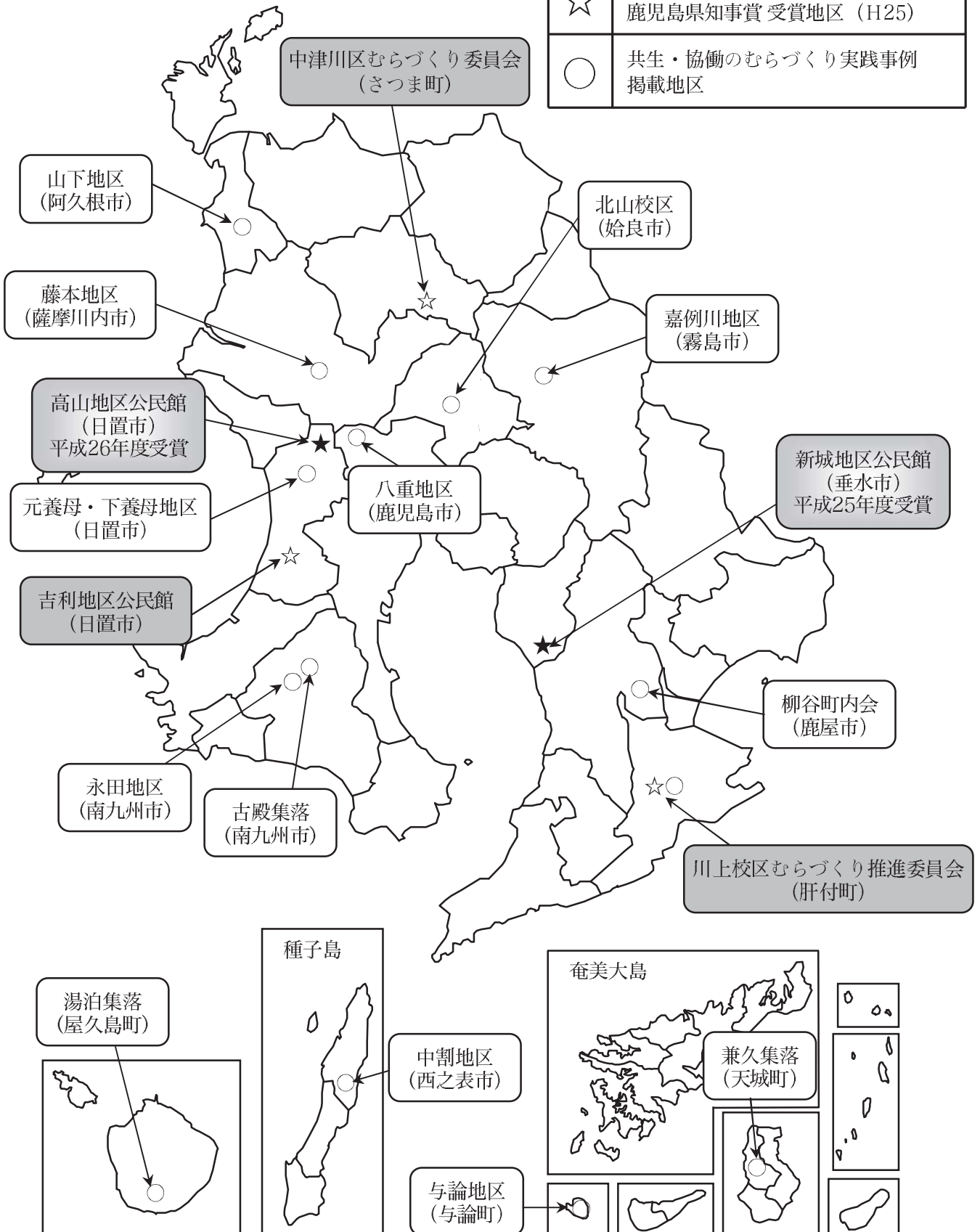
農村集落の活性化のため、NPO法人等や都市住民など地域外の活力の導入や、グリーン・ツーリズム等を通じた都市と農村の交流活動、U・I・Jターン者の定住促進など、集落外の多様な主体との連携により新たなむらづくりの形成を図る。

ウ むらづくりの維持・発展

水土里サークル活動を活用した農村環境の保全や、中山間地域等直接支払制度を活用した耕作放棄地の防止、地域の歴史・文化など地域資源の発掘・活用等によりむらづくりの維持・発展を図る。

2 紹介する事例の位置図

★	豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞受賞地区 (H25・26)
☆	共生・協働の ^{むら} 農村づくり運動表彰 鹿児島県知事賞 受賞地区 (H25)
○	共生・協働のむらづくり実践事例 掲載地区



3 各種表彰地区の紹介

- ・ 豊かなむらづくり全国表彰事業
- ・ 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰

しんじょう
新城地区公民館（垂水市）



農産物直売所「おたけどの郷」



ふるさと先生によるタマネギの作付指導

■ 地区の概要

新城地域は、桜島の降灰被害に度々見舞われる垂水市の南部に位置し、農業が盛んな地区であるが、進行する担い手不足や高齢化等の問題に対応するため、平成5年に「新城地区むらづくり推進委員会」を設置した。

平成18年には「新城地区むらづくり活性化戦略プラン」を策定し、地域住民手作りの農産物直売所を建設し、地域ぐるみで運営するなど、地域住民で話し合いを重ねながら、むらづくり計画の作成と課題解決に向けた実践活動に取り組んでいる。

■ 推進体制

公民館長を中心に、地区内の組織・団体の代表がメンバーからなる運営委員会と、各種事業を行う6つの部会で構成され、地区全体の行事や公民館活動の運営がなされている。

また、公民館活動を中心に、地区内の活動実施団体（おたけどの郷出荷者協議会、新城ふるさと先生グループ等）との密接な連携のもと、非農家も含めたむらづくり活動が円滑に進められる体制が整備されているとともに、子どもたちから高齢者まで多くの人が参加する雰囲気も高く、活発でまとまりのある地域住民活動が展開されている。

■ 主なむらづくり活動

□ 耐灰作物タマネギの導入による水田の有効利用

水田の有効利用及び農家所得の向上を図るため、水稲の裏作作物として、耐灰性があり、高齢農家でも栽培しやすい「タマネギ」の産地化に取り組み、現在では、市場からも高い評価を得ている。

□ 農産物直売所「おたけどの郷」の運営

住民手づくりの無人市から始まった農産物直売所「おたけどの郷」の運営に地域ぐるみで取り組み、地区内高齢農家の収入確保や生きがいづくりにつながるとともに、地区内の漁業振興会と連携して鮮魚の販売も行うなど、工夫をこらした運営を行っている。

□ 女性グループによる加工品の開発・販売

タマネギの産地化に伴い、規格外のタマネギを活用したドレッシングを開発するほか、地区出身者に地元で採れた農産物を届ける「ふるさと便」の発送にも取り組んでいる。

□子ども達にふるさとの良さを伝える「新城ふるさと先生」の活動

子どもたちと高齢者とのふれあいを通じた地域の活性化や教育環境の整備を図るため、地区内の小学校やPTAと連携して、平成2年に「新城ふるさと先生グループ」を立ち上げ、子どもたちがふるさとの誇りを持てるよう、地区内の文化財巡りや地域に伝わる伝統芸能・食文化の継承などに取り組んでいる。

□地域で守る、伝統芸能の復活・伝承活動

「伝承行事保存会」では、地区の氏神である「神貫神社」を中心とした季節毎の郷土芸能の継承に尽力している。また、平成4年には「新城文化財少年団」が結成され、小学生への伝承活動に取り組んでいる。

□地域を伝え、見つめる広報誌「たより新城」の発行

広報誌「たより新城」を、前身となる「新城時報」の創刊から数えて約100年（約300号）にわたって発行しており、新城地区の歴史記録としても大きな財産となっている。

■ むらづくりの特徴

桜島の大正大噴火や降灰被害という他地域にはない自然環境を受け止め、住民同士の強い絆のもと、むらづくり計画の作成と実践を重ねながら、地域住民たちの自主的で持続的なむらづくり活動が展開されている。

耐灰作物であるタマネギの導入による水田営農を中心とした農業振興の取り組みや、農産物直売所「おたけどんの郷」の自主的な運営、さらに、「新城ふるさと先生グループ」の活動など、自主的な努力や創意工夫により、地域の連帯感が高まり、地域農業の振興や住みよい農村の建設に大きく寄与している。



子どもたちへ継承された伝統芸能



女性グループによる加工品の製造



公民館に保存されている広報誌



「ふるさと便」の発送準備の様子

たかやま
高山地区公民館（日置市）



約100年守り継がれる「棚田」



集落ごとに体験を提供する秋まつりの開催

■ 地区の概要

高山地区は、6集落で構成される日置市の最北部の中山間地域で、昭和50年代に県の農村振興運動の表彰を受けるなど、活発なむらづくり活動が続いている地域であるが、平成4年の小学校の廃校や高齢化の進行等を受け、それまでの集落の自治会単位での活動を見直し、平成22年には6自治会が統合し、「高山地区公民館」が発足した。

さらに、地区内の棚田の保全や高齢者の外出支援等を行うため、地区住民全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」を設立し、棚田を活用した農業の振興や生活環境の充実を図る活動を行っている。

■ 推進体制

公民館長を中心に、各種事業を行う5つの部会で構成され、公民館活動や部会活動の充実及び産業・文化活動の推進に取り組んでいる。

また、平成25年には「高齢者がいきいきと生活でき若者が定住したくなる魅力的な地域を創り出す」を目標に、集落住民の全員が会員となった「NPO法人がんばろう高山」を設立し、農山村の振興、保健医療福祉の増進やまちづくりを図る活動等を行っている。

■ 主なむらづくりの取組

□ 小さなメダカが興したむらづくり～ようこそ！棚田&めだかの里へ～

明治後期に開墾された尾木場集落の棚田は、集落の田守人たちによってその美しい景観が保全されており、平成25年度からは、棚田の一部を「NPO法人がんばろう高山」が作業受託するなど、地域ぐるみで営農が継続できる体制が構築されている。

また、棚田の用水路に珍しい在来種のクロメダカが生息していることから、きれいな水で育ったお米を「めだか米」として付加価値を付けた販売や、米づくり体験等の都市農村交流に取り組んでいる。

□地域資源を活かした体験型プログラムによる農村の魅力発信

平成14年からスタートした「高山ふるさと秋まつり」では、地域農林水産物を活かした手づくり体験など、集落毎に体験プログラムが楽しめる体験型交流として定着している。

□地区交流センターを拠点に始まった若者世代との交流

平成8年に開設した「高山地区交流センター」は、宿泊研修施設を利用する小学生のスポーツ少年団や大学サークルの合宿等の受入等により、その利用者は年々増加するとともに、大学サークルでは音楽コンサートの開催や秋まつりへのボランティア参加など地域との継続的な交流へ発展している。

□高齢者を地域ぐるみで支える仕組みづくり

過疎・高齢化の進行や独居世帯の増加に伴い、買い物等の交通手段に困っている高齢者に対し、「NPO法人がんばろう高山」を中心に、地域ぐるみで安心・安全な外出を支援する仕組みづくりに取り組んでいる。

■ むらづくりの特徴

当地区は、棚田を中心とした農業振興や、各集落の特徴ある資源を活かした体験ができる「高山ふるさと秋まつり」の開催、棚田の農業体験交流、高山地区交流センターを拠点とした研修受入など、継続的な都市農村交流や豊かな農山村の魅力の発信を行っている。

さらに、集落住民全員が参加するNPO法人の設立により、安定した事業運営や高齢者の福祉の充実などを図り、地域ぐるみで住みよい農村生活の向上を目指すなど、中山間地域の不利な条件の中、地域住民が一致団結したむらづくり活動が展開されている。



棚田での米づくり体験



合宿中の大学生によるコンサートの開催



廃校を活用した「高山地区交流センター」



NPO法人による高齢者の外出支援

よしとし
吉利地区公民館（日置市）



都市住民との交流（大豆の栽培）



地元農産物を活用した加工品の開発・販売

■ 地区の概要

吉利地区は、日置市日吉町の南に位置し、北区、中区、南区の3自治会から構成され、東に大谷山と向江山、西には吹上浜の砂丘が南北に広がっており、四季折々の自然の魅力が感じられる土地である。

農業面では、北部は水田が多く、南部は台地で畑作地帯となっている。北部の水田地帯では、主に水稻の作付けが行われており、「農事組合法人キタカタ」がブロックローテーションによる転作作物として大豆、そば、麦を生産している。

また、地区の出荷者で構成された組合による農産物直売所「吉利物産店」の運営や加工グループによる地元農産物を利用した加工品の開発・販売など、地域資源を活用した活かなむらづくり活動を展開している。

■ むらづくりの推進体制

吉利地区は、元来、自治会運営の強固な基盤がある地区であったが、過疎化や少子・高齢化の進行などにより、それまで自治会単位で行っていた活動も近い将来はできなくなるのではと懸念されていた。

そこで、日置市の公民館組織の設置に伴い、集落点検や話し合い活動をもとに「吉利地区振興計画」を策定し、計画的な農村環境の改善などに取り組むとともに、料理教室や夏祭りのイベント等については、公民館の各部会で話し合いながら地区住民が一体となって活動を行っている。

また、水土里サークル活動や中山間地域等直接支払により、農地や農業資源の保全活動を展開している。

■ むらづくりの活動の特徴

□地域農産物を活用した新たな特産品の開発

地区内の加工グループが「(農)キタカタ」の生産した大豆を利用した豆腐や味噌、鍋スープ等の特産品づくりに取り組んでおり、「吉利物産店」の主力商品として地区内外から好評を得ている。

なお、商品開発には、NPO法人のノウハウを活用し、新たに「豆乳プリン」の開発・販売を行っている。

□都市住民との交流促進

「吉利物産店」でのイベント開催や、企業と協働で実施する農業体験ツアーなどの受入れを行うことで、地区内外の交流が図られている。

□地域内の交流と地域活性化

食育講習会や地区内の高齢者を講師とした郷土料理伝承講座の開催を通じて、次世代へ「郷土の味」を継承するとともに、高齢者の生きがいづくりに貢献している。

また、地元小学校への出前講座の実施により、子どもたちとの交流や食育の推進が図られている。

□地区住民による観光客受入体制の強化

地区内にある観光の名所「小松帯刀公」の史跡では、地区住民3人が観光ボランティアガイドとして案内するほか、地区住民による墓所の清掃や観光客へのお茶のおもてなしが行われている。



(農)キタカタによる大豆の収穫風景



農産物直売所「吉利物産店」



郷土料理伝承講座

■ 今後の展開・抱負

同じ課題を抱える他の地域に積極的に取り組んでもらえるモデルとなれる地域づくりを目指したい。

具体的には、NPO法人や各種団体等の多様な主体と協働で、さらなる地域農産物を生かした6次産業化を進めるとともに、「吉利物産店」における都市住民との交流事業を継続するほか、修学旅行生の受入体制の整備に取り組み、幅広いむらづくりの取組を展開していきたい。

■ 表彰理由・講評

- ・ 地元産の大豆等を活用した加工品の開発・販売など、地域ぐるみの6次産業化の取組が確立され、新たな特産品の販売拡大につながっている。
- ・ NPO法人や民間企業等と連携した協働活動が実践されるとともに、郷土料理の伝承や食育の推進など次世代への地域文化の継承が図られている。

なかつがわ
中津川区むらづくり委員会 (さつま町)



なかつこ日曜朝市



イルミネーション IN なかつこ

■ 地区の概要

中津川区は、さつま町の東部、薩摩川内市祁答院町に隣接した水田地帯で、5公民会で構成される。地区内には、県の「森林浴の森70選（溪流コース）」にも選ばれている観音滝公園や白猿の棚田等があり、豊かな自然環境に恵まれた地区である。

農業面では、水稲・畜産・薩摩西郷梅などを組み合わせた複合経営が主体である。特に、水稲は、普通期米の採種ほ場として採種生産組合が設立されており、本県の種もみの生産を担っている。

また、担い手不足や農地の荒廃を防ぐため、地区内に農作業受託組織が設立されるなど、集落営農への取組も積極的に行われている。

さらに、地域住民が一体となって、地元農産物を活用した焼酎づくりや地域資源を利用したイベント開催など様々なむらづくり活動を展開している。

■ むらづくりの推進体制

中津川区では、平成22年度に地域の目標や将来像を示した「中津川地区地域づくり活性化計画書～むらのかたち～」を作成し、「伝統を引き継ぐ“中津川の底力！”みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」のスローガンを定めた。

この「むらのかたち」に基づき、中津川公民館長、各公民会長、地域担当職員に加えて、6つの専門部会長の話し合いによりむらづくり活動を推進している。

各種イベントの開催に際しては、若い世代を中心とした実行委員会を組織するなど、地域住民の各世代が積極的にむらづくり活動に参画している。

また、水土里サークル活動や中山間地域等直接支払の実施により、農地等の保全管理や耕作放棄地の発生防止に取り組んでいる。

■ むらづくりの活動の特徴

□ 「なかつこ日曜朝市」で経済活動

平成23年8月に地区住民自らの手づくりで常設施設「なかつこ日曜朝市」を建設し、月1回、地元産の農産物や加工品を有人販売しているほか、平日は無人販売所として開設され、地域の交流の場にもなっている。

□ 焼酎で自主財源づくり

地区内の遊休農地に栽培したさつまいもと地区住民から提供された米など、地元産にこだわった焼酎「金吾さあ」を酒造会社と連携して製造・販売している。

売上金の一部を地区の自主財源として活用している。

□ 水田を利用した新たな景観づくり

若い世代の実行委員会が中心となって、平成16年度から水田を利用した景観イベント「イルミネーションINなかつこ」を開催している。10周年を迎え、町内外から多くの観客が訪れる地区のイベントとして定着している。

□ 伝統芸能の継承・復活

地区に伝わる「金吾様踊り」は、地区内外から多くの観客が訪れる「大石神社」秋季大祭で奉納されており、子どもたちへ踊りの継承が行われている。

また、これまで途絶えていた「地割舞い」を高齢者と一緒に復活させ、継承に取り組んでいる。



住民による「なかつこ日曜朝市」の建設風景



焼酎「金吾さあ」



復活した「地割舞い」

■ 今後の展開・抱負

「伝統を引き継ぐ“中津川の底力！”みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」のスローガンのもと、先人達が築きあげてきた自然環境の保全や郷土芸能の継承など、地区住民の融和と団結の力を高めてさらに発展させたい。

日曜朝市の定期開催を図るための野菜栽培の拡大、女性グループによる加工品の開発、若者による伝統芸能の復活や後継者育成に取り組んでいく。

■ 表彰理由・講評

- ・ 若い世代を中心とした地域イベントの開催や女性グループによる加工品の販売など、住民全員が参画するむらづくり活動が展開されている。
- ・ 遊休農地を活用したさつまいも栽培による焼酎の製造・販売など、自主財源の確保に取り組むとともに、数多くの伝統芸能の復活・継承が図られている。

かわかみ
川上地区むらづくり推進委員会（肝付町）



地域交流施設「やまびこ館」



そば打ち交流会

■ 地区の概要

川上地区は、肝付町の西部に位置し、高山川と岩屋川支流の合流地点近くに位置する国見山系の静かな山里に囲まれた地域で4集落から構成される。豊富な水を利用して水力発電所も設置されている。

水稲を中心とした農業が行われており、また、山間部の傾斜地を利用した果樹栽培やシイタケ栽培、炭焼き等も古くから盛んに行われている。

平成21年度に地区内の川上中学校の木造校舎が国の登録有形文化財へ登録されたことを契機に、住民一体となった地域おこしの気運が高まり、平成22年に地域交流施設「やまびこ館」が開設された。

やまびこ館は、地域住民とむらづくり推進委員会が協力して管理運営を行っており、地域農産物の販売のほか、様々なイベントや田植え体験等の体験・交流活動に活用されている。

■ むらづくりの推進体制

川上地区は、各集落から選出された委員のほか、振興会、公民館、婦人会などによる「川上校区むらづくり推進委員会」を中心として、月1～2回の定例会や年間5回程度の情報交換会などを開催して、情報の共有化と協力体制の強化を図っている。

また、川上中学校の廃校跡を利用した地域交流施設「やまびこ館」が地域住民活動の拠点となっている。

若者の多くが就職先を求めて地域外や町外へ出ている中、山里の良さに惹かれ残っている若者も見られ、僅かではあるが都会からの移住者も現れはじめている。

中山間地域等直接支払を活用して、集落ぐるみの農地や水路等の保全活動を展開している。

■ むらづくりの活動の特徴

□ 「やまびこ館」での販売・交流活動

地域交流施設「やまびこ館」は、地区住民が生産した農産物や加工品等の販売場所として所得向上に貢献しているほか、小学生親子のそば打ち体験や新米祭り等のイベントの実施場所として交流活動の拠点となっている。

□ 地域資源を活用した都市農村交流

耕作放棄地への景観植物（コスモス等）の植栽や、耕作放棄地で生産されたそばを利用したそば打ち交流会等のイベントを実施しているほか、地域密着型の旅行商品「魅旅」のコースにも選定された。

□ 地域おこし協力隊との連携

ダンス作家である地域おこし協力隊と連携し、「踊る地域案内所」や休校中の学校の体育館を利用したイベントの実施、空き家を活用した定住促進等に取り組んでいる。

□ 地域ぐるみの農村環境や伝統芸能を保全

地区内の川上神社付近の遊歩道を地域住民が手づくりで整備したほか、日本自然保護協会の協力を得て「川上ふれあいマップ」を作成するなど、農村環境の維持にも取り組んでいる。

子どもたちの減少により危ぶまれた伝統芸能「コタコン」についても、集落との連携・協力で継承している。



耕作放棄地への景観植物（コスモス）の植栽



川上ふれあいマップ等



地域に残る伝統芸能「コタコン」

■ 今後の展開・抱負

解消した耕作放棄地を活用した農産物の生産拡大や、地域農産物を利用した新たな加工品づくり、小規模の水田を生かした米一俵のオーナー制度の実施、休校の校舎等を活用した農家レストランの開業などに取り組み、地域資源を最大限に活用したむらづくりを進めたい。

また、様々なイベントの実施や企画の充実を図り、交流人口の増加と定住促進により、地域の活性化を図る。

■ 表彰理由・講評

- ・ 地域交流施設「やまびこ館」を拠点に、耕作放棄地を活用した農産物の生産拡大や、そば打ち体験など地域資源を活用した交流活動が展開されている。
- ・ 地域おこし協力隊等と連携したイベント等の実施により、地域の魅力発信に努め、旅行商品化やIターン等の定住促進が図られている。